

外来担当表

外来窓口	科名	時間	月	火	水	木	金
80 放射線治療	放射線科	午前	/	/	/	/	/
		午後	狩野裕一	狩野裕一	狩野裕一	狩野裕一	狩野裕一

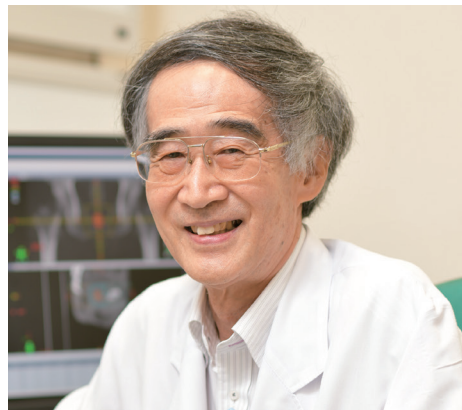
※外来担当表は、予告なく変更される場合がございます。来院前に必ずお電話でご確認ください。
※休診予定については、お電話にてご確認ください。連絡先:083-262-2300 (代表)

Doctors File 3

放射線科

Doctors File 3 [放射線科]

Staff Introduction and Key Specialties



狩野 裕一

Karino Yuuichi
【出身大学】 山口大学(昭和56年)
【専門領域】 放射線治療
【資格】
日本医学放射線学会 放射線治療専門医
日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医

わかりやすい説明
聞きたい
言いたいことは
いつでも遠慮なく
わかりやすい
治療を



金子 隆文

Kaneko Takafumi
放射線科科長
【出身大学】 川崎医科大学(昭和62年)
【専門領域】 画像診断
【資格】
日本医学放射線学会 放射線診断専門医

開業医の先生の
ご要望にすぐ
一丸で即応して
いきたいと思っ



箕田 俊文

Mita Toshifumi
【出身大学】 大分医科大学(平成2年)
【専門領域】 画像診断、IVR
【資格】
日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本インターベンショナルラジオロジー学会
IVR 専門医

正確な診断と安全、
確実なIVRを心がけて
います。おしくお願ひ
いたします。

RADIOLOGY SPECIALIST

——— 放射線医学のスペシャリスト



Doctors File 3

山口県済生会下関総合病院の広報誌

2021年9月30日発行 発行者:病院長 森 健治 編集:広報委員会 〒759-6603 下関市安岡町8丁目5番1号 TEL:083-262-2300 FAX:083-262-2301

最新の外来診療表がホームページで確認できます <https://www.simo.saiseikai.or.jp/>



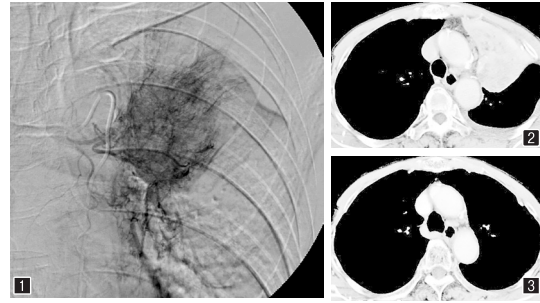
Mita Toshifumi

放射線科IVRの紹介

悪性腫瘍に対する動注化学塞栓療法

進行肝細胞癌に対して動注リザーバー留置術を施行しています。また進行肺癌に対して気管支動脈から抗癌剤および塞栓物質を注入することもあります。症例によっては良好な治療効果が得られることがあります。

〈図1〉動注化学療法が著効した肺癌症例

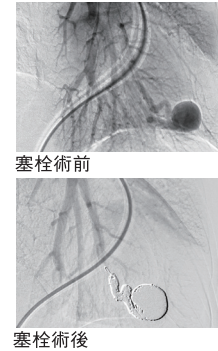


1:左気管支動脈造影 2:動注前CT 3:動注後CT

内臓動脈瘤・動静脈奇形に対する塞栓術

脾動脈瘤、腎動脈瘤、肺動静脈奇形、消化管の動静脈奇形などに対して塞栓術を行っています。主に金属コイルを使用して塞栓術を行っていますが、消化管の動静脈奇形ではヒストアクリルを使用する場合もあります。

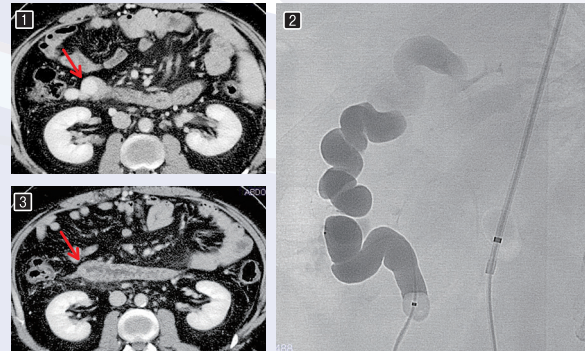
〈図2〉肺動静脈奇形に対するコイル塞栓術



門脈大循環短絡に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈性塞栓術 (BRTO)

門脈大循環短絡に伴う胃静脈瘤や十二指腸静脈瘤に対して破裂予防の目的で施行しています。肝性脳症に対する治療として施行することもあります。短絡の排水路に対して経静脈的にバルーンカテーテルを挿入してバルーン閉塞下に逆行性に硬化剤を注入・停滞させることで短絡路を血栓化して塞栓します。

〈図3〉十二指腸静脈瘤に対するBRTO



1:治療前CT十二指腸下行脚に静脈瘤あり
2:バルーン閉塞下逆行性造影右精巣静脈より短絡の排水路にバルーンカテーテル挿入・硬化剤注入
3:治療後CT静脈瘤が消失

インターベンショナルラジオロジー (IVR:画像下治療) とは

画像診断の技術を応用して行う治療のことでIVR(アイ・ブイ・アール)と略されています。代表的なのはカテーテルを使った血管内治療です。当科では、様々な疾患、病態に対して各診療科からの依頼を受けて施行しています。血管内治療以外にCTガイド下の生検や膿瘍ドレナージも行っています。

出血に対する止血目的の動脈塞栓術

危機的産科出血、喀血、消化管出血、外傷や術後出血に対してカテーテルを責任血管まで挿入し塞栓物質を注入して止血します。塞栓物質としてはゼラチンスポンジ、金属コイル、ヒストアクリルなどの液体塞栓物質がありますが、出血している臓器・部位や原因疾患により最適な塞栓物質が異なり十分な経験、技術と知識が必要とされます。



高精度放射線治療を可能にする——最新型リニアック TrueBeamの導入

放射線治療装置“TrueBeam”の導入

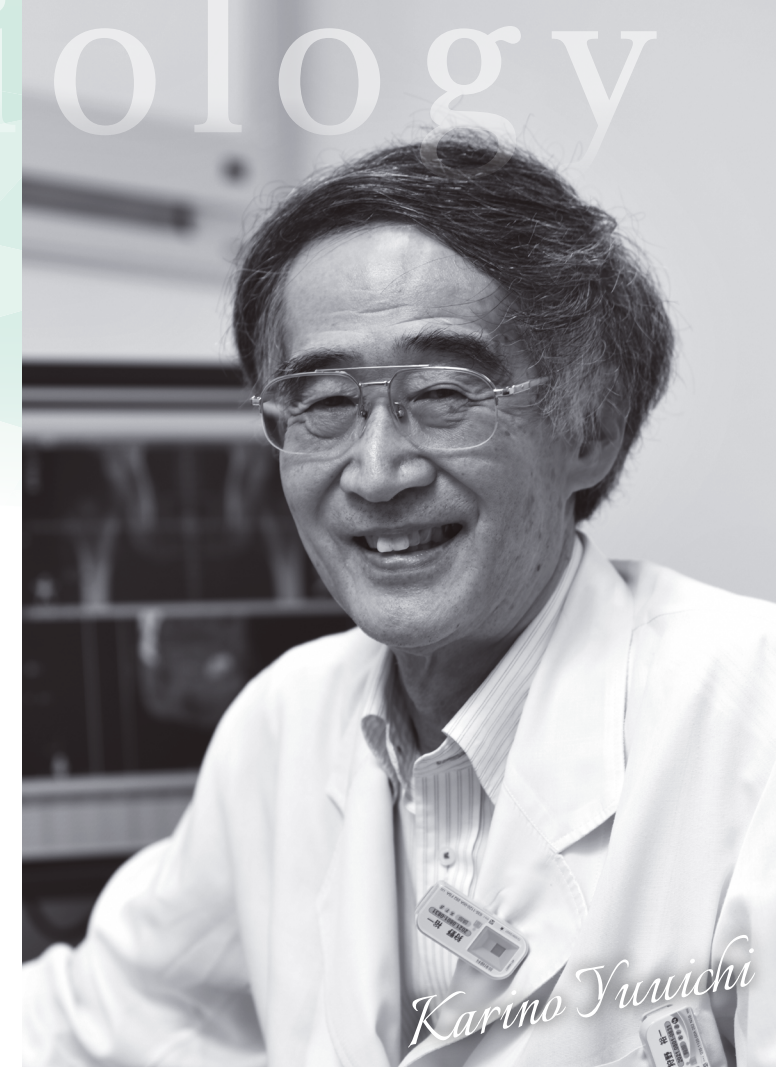
当院では、平成17年4月の新病院新築移転時から使用しているリニアック装置の老朽化に伴い、最新の放射線治療を行うことができる高精度放射線治療装置“TrueBeam”と新システムへの更新を行いました。令和2年9月に設置が完了し、令和3年1月6日より運用が開始されました。放射線治療装置“TrueBeam”の導入により、サブミリメートル単位の高い精度で、治療位置精度の向上が得られると共に、治療部位に適した放射線エネルギーの選択が可能となり、また、治療計画装置 Eclipse(CT画像をベースに腫瘍に対する線量計算のシミュレーションを行う装置)も合わせ、一人ひとりの患者様に最適な治療計画を実現していくことが可能となりました。従来の装置に比べがん病巣部以外への被ばく線量を低減させることができるとともに、治療時間を短縮でき、患者様の身体への負担を軽減することができます。まだ新装置システムを十分生かし切れていない状況ではありますが、今後可能になる治療法として、

1. 定位放射線治療 (SBRT)

小さな領域に多方向・多軌道からの照射を行い病変の計上に合わせて線量を集中させることで高線量照射が可能となる治療法です。正常細胞への障害を抑えながら、病変そのものには高線量を照射することができ、通常治療と比べて正常細胞への被ばくを抑えながら短期間で治療を行うことができます。

2. 画像誘導放射線治療 (IGRT:Imaging guided radiotherapy)

事前に撮影した治療計画用CTの画像と治療直前に撮影するレントゲン写真の位置誤差を補正しながら正確に治療する治療法。正確な位置合わせにより安全性の高い放射線治療を実施することが可能となります。以上の導入を進めており、今回治療機を更新したことで高精度・高線量での照射が可能となるため高精度かつ短時間で治療を行うことができるようになると考えられます。



Karino Yuuichi

放射線治療部門として、“TrueBeam”を使った外照射治療及び治療計画は、月～金の連日午後外来(基本各診療科あるいは病診経路よりの紹介)としています。その他、平成23.11.4より、泌尿器科と共に開始された、前立腺密封小線源治療は、2-3例/隔週～各週/月の木曜日1日で施行。そのお手伝い。他、放射線同位元素内用療法として、前立腺癌へのRa治療も可能としています。

当院は平成27年に、下関地域のがん診療の中核となる病院として厚生労働省から地域がん診療連携拠点病院の認定を受けました。地域の病院・診療所、山口大学病院と連携を行いながら、この度更新した最新の放射線治療機にて、患者様に良質な安全な医療の提供を行って参ります。

※済生会下関総合病院広報誌 ぶくぶく第60号より引用

